

幼稚園で嬉々として活動する子どもの姿を見ながら、ひとりひとり良き個性を伸ばして力強い人間に成長して行つて欲しいと思う、人と人との結び付きを快いものにして得るパーソナリティ形成への祈りをこめて……だがその中には教育上からみて歪んだ姿を持つものや、将来子ども自身苦しい思いをしなければならぬような「問題を持つ子」をかなり発見することができる。いかなる親も良い子どもであつて欲しいと願わない人はいないはずなのにどうしてこういうことになるのだろうか。性格は、幼児期に大体方向づけられるというが、可塑性の高いこの時機の誤つたしつけ方は、あとになるに従つて直すのに困難の度を増す。家庭のしつけの面で迷いを持ち真剣に解決を求めていられるお母さん。幼稚園、保育園で級の運営を円滑に進めて行きたいと願う先生方にこの本の一読をお薦めする。おとなの世界と子どもの心理の世界とは質的に異なるものであり。またおとなが考える程感情も単純ではない、ということをもう誰もが知つていて良いはずであるのに実際の生活の中ではそれがうまく処置されず、うっかりしている間に困つた行動に發展していき、可愛い／＼と過度の保護を加えて子どものためによかれと信ずる心が逆に性格を

弱める結果となつて、ちよつとした欲求不満にもすぐ泣き出す適応異常の子どもを生んでしまふ。そうした失敗はどこに起因し、どうしたら良いかを、一日も早く見究めて矯正への努力に向いたい。著者も「はしがき」で言つておられるように、この本は常識的なしつけ読本でなく問題行動の臨床心理学的解釈であり、科学的な解決への

●●●●● 書 評 ●●●●●

品川不二郎著

「幼児の教育相談」

—— 一日も早い  
問題解決への指針 ——

郡山女子短期大学

定方とく



メスの役割を持つている。情緒に関する問題、社会性に関する問題、知能と能力に関する問題等について、豊富な事例をあわせて理論づけ、徴候、原因、適切な処置を冷静で適切な目をもつて、良い解決法が見出せないで、ずるずると押し流されたりおろおろしている母親たちへ温く語り合うような態度で一つ一つわかりやすく説きあかし

てくれる。ひとつの原因から全く異つた徴候が現れることもあるし、その逆の場合もある。両者の関係を正しく把握することが必要で、表面的な徴候に目を奪われて根本的な原因の処置を行わないなら、問題はいつ迄もどうどう巡りをする外はないと、「しろうと」の生兵法を警告している。親は子どもへの理解を正しく持ち、細心の注意と温い愛情で優しく子どもを包む一方（或る時は）子どもとの対人関係や、自分をも第三者の眼で、客観的にみるべきであるという。情緒の未成熟から社会生活が円滑に行かない子は、親が思い切つてどんな子どもの中にも我が子を突き離してやろうと決意すべきだとのことばも多くの示唆を含んでいると思う。この本をおかあさんだけでなくおとうさんおばあさんやおじいさんが読んでくれたらどんなに良いだろう。もちろんこれだけでうまく行くとは思えないが、家庭という力学的な場で、皆が協力して問題解決の努力をしたら現在より多くの光が、皆の心の中にさし込むに違いない。

\*

\*

\*

\*